

平成29年度  
福井県教育委員会の事務の管理および執行の状況の  
点検・評価報告書

平成30年8月

福井県教育委員会

# — 目 次 —

I	はじめに	1
II	点検・評価について	2
III	組織および決算	
1	組織	3
2	課別決算額調	4
IV	平成29年度福井県教育委員会の活動状況	
1	教育委員会の会議開催等の状況	5
2	教育委員の活動状況	9
3	審議会等審議状況	11
4	教育委員会関係の許認可の状況	11
5	県立学校入学者選抜学力検査結果の状況	13
6	平成29年度実施 平成30年度公立学校教員採用選考試験の実施状況	15
V	平成29年度の教育関係施策の取組実績	
1	平成29年度の主な取組みについて	18
2	主要施策成果報告	19
VI	有識者からの意見	36

## I はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下、「地教行法」という。）に基づき、平成20年度から、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理および執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しています。

### [ 参 考 ]

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（抜粋）（平成27年4月1日改正法施行）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

本報告書「平成29年度 福井県教育委員会の事務の管理および執行の状況の点検・評価報告書」（以下、「点検・評価報告書」という。）は、地教行法の規定に基づき、より効果的な教育行政の推進と県民の皆様に対する説明責任を果たすため、福井県教育振興基本計画に掲げた施策の実施結果を示すとともに、教育委員会の各種活動状況について点検・評価した結果を取りまとめたものです。

有識者の方に内容のご確認をいただき、その意見を併せて掲載しています。

本報告書により県民の皆様から、県の教育行政についてのご意見やご要望をいただき、今後の新たな教育関連施策に活かしていきたいと考えています。

## Ⅱ 点検・評価について

### 1 対象期間

平成29年度（平成29年4月～平成30年3月）

### 2 点検・評価方法

#### (1) 点検・評価報告書の作成

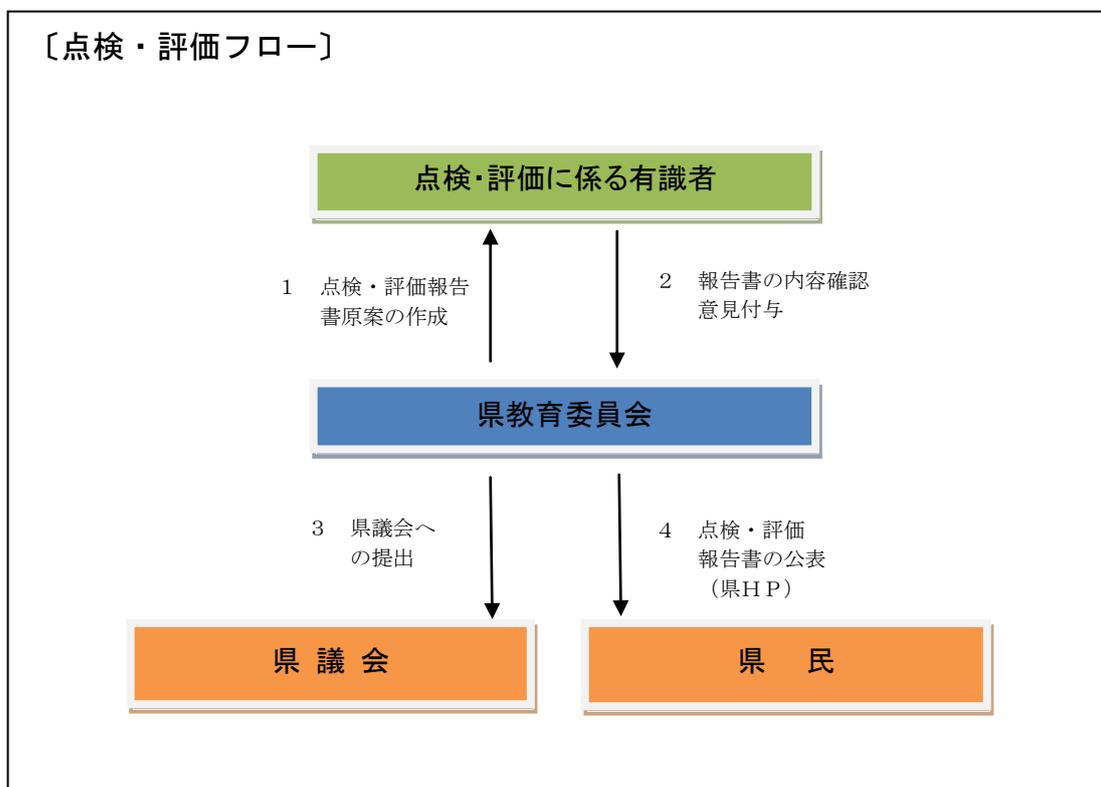
- ・ 教育委員会において点検・評価報告書案を作成

#### (2) 点検・評価報告書の確認、審査

- ・ 有識者による点検・評価報告書案の内容の確認および審査

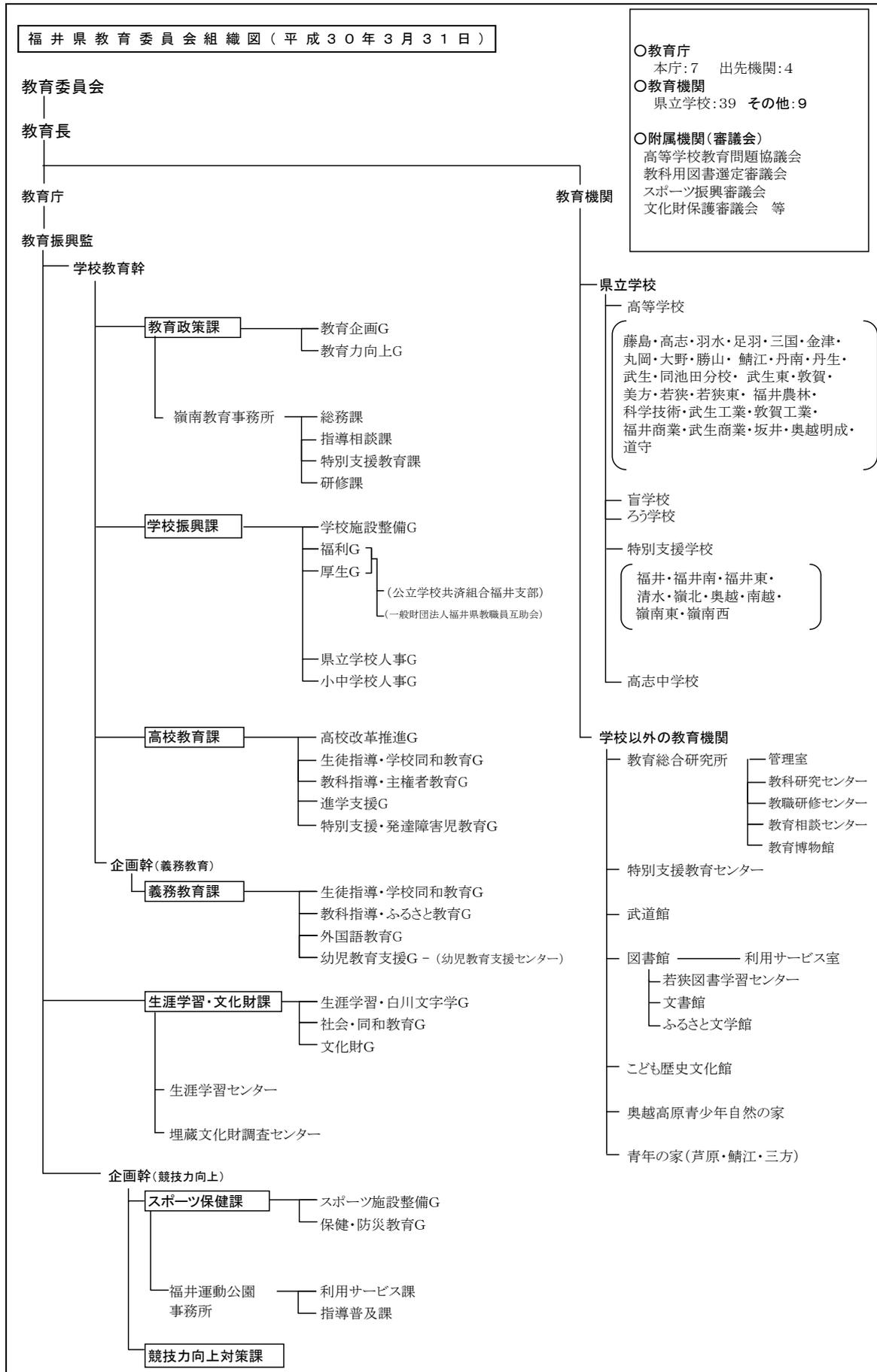
#### (3) 点検・評価結果の公表

- ・ 点検・評価報告書を県議会に提出するとともに、県のホームページにおいて公表



### Ⅲ 組織および決算

#### 1 組織



## 2 課別決算額調

(一般会計)

(1) 歳入

(単位:千円、%)

課名等	予算現額A	調定額B	収入済額C	(不納欠損額) 収入未済額	C/A	C/B
教育政策課	48,567	44,387	44,387	0	91.4	100.0
学校振興課	16,241,768	16,096,137	16,094,158	1,979	99.1	100.0
高校教育課	220,003	237,931	215,971	21,960	98.2	90.8
義務教育課	185,979	176,649	176,649	0	95.0	100.0
生涯学習・文化財課	1,586,016	1,421,936	1,421,914	22	89.7	100.0
スポーツ保健課	437,247	361,590	361,590	0	82.7	100.0
競技力向上対策課	647,584	622,017	622,017	0	96.1	100.0
計	19,367,164	18,960,647	18,936,686	23,961	97.8	99.9

(2) 歳出

(単位:千円、%)

課名等	予算現額A	支出済額B	翌年度繰越額C	不用額	B/A
教育政策課	3,298,454	3,272,297	0	26,157	99.2
学校振興課	76,060,950	74,704,714	982,233	374,003	98.2
高校教育課	1,192,681	1,154,724	0	37,957	96.8
義務教育課	1,398,385	1,346,273	0	52,112	96.3
生涯学習・文化財課	2,493,631	2,289,259	1,951	202,421	91.8
スポーツ保健課	2,225,478	1,752,825	442,116	30,537	78.8
競技力向上対策課	1,409,341	1,347,147	0	62,194	95.6
計	88,078,920	85,867,239	1,426,300	785,381	97.5

※ 計で四捨五入になるよう端数調整

#### IV 平成29年度福井県教育委員会の活動状況

##### 1 教育委員会の会議開催等の状況

###### (1) 福井県教育委員会委員

(平成29年4月1日～平成29年7月21日)

	氏名	職業
教育長	森 近 悦 治	
委員 (教育長職務代理者)	吉 井 正 雄	医師
委員	清 川 肇	会社役員
委員	西 野 里 佳	元PTA役員
委員	八 田 嘉一郎	会社役員
委員	南 部 隆 保	会社役員

(平成29年7月22日～平成29年10月10日)

	氏名	職業
教育長	東 村 健 治	
委員 (教育長職務代理者)	吉 井 正 雄	医師
委員	清 川 肇	会社役員
委員	西 野 里 佳	元PTA役員
委員	八 田 嘉一郎	会社役員
委員	南 部 隆 保	会社役員

(平成29年10月11日～平成30年3月31日)

	氏名	職業
教育長	東 村 健 治	
委員 (教育長職務代理者)	吉 井 正 雄	医師
委員	西 野 里 佳	元PTA役員
委員	八 田 嘉一郎	会社役員
委員	南 部 隆 保	会社役員
委員	原 公 樹	僧侶

## (2) 教育委員会会議の開催状況

- ・ 開催回数 20回
  - ・ 附議事項 49件
- 第1059回（平成29年4月28日（金））
- ・ 平成30年度福井県公立学校教員採用選考試験について
  - ・ 福井県教科用図書選定審議会委員の任命について
  - ・ 福井県心身障害児就学指導委員会委員の委嘱について
- 第1060回（平成29年5月19日（金））
- ・ 福井県個人情報保護条例施行規則の一部改正について
- 第1061回（平成29年6月12日（月））
- ・ 平成29年度福井県立高等学校後期編入学者選抜実施要項（定時制の課程および通信制の課程）の制定について
  - ・ 平成30年度使用義務教育諸学校教科用図書採択についての基準、選定資料および採択目録の決定について
- 第1062回（平成29年7月7日（金））
- ・ 教育長辞職の同意について
- 第1063回（平成29年7月12日（水））
- ・ 協議・報告事項のみ
- 第1064回（平成29年7月28日（金））
- ・ 平成30年度福井県公立学校教員採用選考試験第1次選考合否の決定について
- 第1065回（平成29年8月17日（木））
- ・ 平成30年度福井県立高等学校入学者選抜実施要項等（定員等を除く）の制定について
- 第1066回（平成29年8月24日（木））
- ・ 平成30年度福井県立高等学校入学者選抜における福井国体に係る体育推薦の実施校および実施種目の決定について
  - ・ 平成30年度福井県立高志中学校入学者募集要項の制定について
  - ・ 平成30年度使用県立高等学校、県立特別支援学校高等部および県立中学校の教科用図書の採択について
  - ・ 福井県立歴史博物館運営協議会委員の任命について

- 第1067回（平成29年9月4日（月））
  - ・平成28年度教育委員会の事務の管理および執行の状況の点検・評価報告書について
  
- 第1068回（平成29年9月27日（水））
  - ・平成29年度教育功労者表彰の被表彰者の決定について
  - ・平成30年度福井県公立学校教員採用選考試験の採用内定者の決定について
  
- 第1069回（平成29年10月25日（水））
  - ・平成30年度福井県立学校入学者募集定員について
  - ・平成30年度福井県立高等学校入学者選抜実施要項等の制定について
  - ・平成30年度福井県立特別支援学校の幼稚部および高等部の入学者選考実施要項の制定について
  
- 第1070回（平成29年11月20日（月））
  - ・福井県教育長の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する条約の一部改正について
  - ・平成30年度福井県公立小・中学校事務職員採用試験の採用内定者の決定について
  - ・平成30年度福井県公立学校校長・教頭任用選考試験の合格者の決定について
  - ・平成30年度教職員人事異動方針について
  
- 第1071回（平成29年11月24日（金））
  - ・教職員の懲戒処分について
  
- 第1072回（平成29年12月11日（月））
  - ・職員の人事異動について
  
- 第1073回（平成29年12月27日（水））
  - ・県立高等学校再編整備丹南地区実施計画等について
  - ・平成29年度ふくい優秀教職員表彰被表彰者の決定について
  - ・福井県朝倉氏遺跡研究協議会委員の委嘱について
  
- 第1074回（平成30年1月30日（火））
  - ・平成29年度福井県学校保健・学校安全・学校給食表彰被表彰者の決定について
  - ・南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞受賞者の決定について
  - ・平成30年度福井県公立学校再任用教職員採用内定者の決定について
  - ・平成30年度福井県立学校寄宿舎指導員採用内定者の決定について
  
- 第1075回（平成30年2月9日（金））
  - ・福井フューチャーマイスタートップ賞受賞者の決定について

○第1076回（平成30年2月19日（月））

- ・福井県立学校職員定数条例の一部改正について
- ・市町立学校県費負担教職員定数条例の一部改正について
- ・授業名人の任命について
- ・福井県立美術館運営協議会委員の任命について

○第1077回（平成30年3月14日（水））

- ・平成30年4月1日付け教育庁および学校以外の教育機関の管理職（教員出身者）の人事異動について
- ・平成30年度公立小中学校校長・教頭および県立学校校長・教頭の人事異動について

○第1078回（平成30年3月20日（火））

- ・福井県指定文化財の指定について
- ・福井県個人情報保護条例施行規則の一部改正について
- ・教職員免許に関する規則の一部改正について
- ・福井県奨学育英基金管理規則の一部改正について
- ・福井県文化財保護審議会委員の任命について
- ・福井県銃砲刀剣類登録審査委員の任命について
- ・平成29年度漢字指導者の認定について
- ・平成30年4月1日付け機構改革（教育委員会関係）および教職員以外の参事級以上の職員の人事異動について
- ・平成30年4月1日付け機構改革に伴う福井県教育委員会規則等の一部改正について

## 2 教育委員の活動状況

時 期	活 動 内 容 (参加行事等)
平成29年	
4月 3日	新採用教職員辞令交付式
4月 3日	県立学校校長・教頭辞令交付式
4月 4日	総合教育会議
4月15日	県教育総合研究所および自治研修所開所記念式典
4月28日	第1059回教育委員会
5月19日	第1060回教育委員会
5月24日	市町教育委員会連絡協議会
5月26日	県市町女性教育委員の会
6月12日	第1061回教育委員会
6月29日	学校視察 (福井大学教育学部附属義務教育学校)
7月 7日	第1062回教育委員会
7月10日	嶺南地区校長会
7月12日	第1063回教育委員会
7月28日	第1064回教育委員会
8月 6日、7日、8日	教員採用試験面接
8月12日	北信越国体視察
8月17日	第1065回教育委員会
8月24日	第1066回教育委員会
8月25日、26日、27日	北信越国体視察
9月 4日	第1067回教育委員会
9月22日	学校視察 (武生高校)
9月27日	第1068回教育委員会
9月29日、30日、 10月 1日、 2日、 3日	愛媛国体視察
10月 3日	福井県特別支援学校教育研究大会
10月 4日、 5日	愛媛国体視察
10月 5日	学校視察 (敦賀高校、丸岡高校)
10月 7日	若狭高校創立120周年記念式典
10月11日	学校視察 (武生工業高校)
10月18日	学校視察 (荒土小学校)
10月25日	学校視察 (荒土小学校)
10月25日	第1069回教育委員会
10月26日	管理職任用選考試験面接
10月26日	平成29年度 都道府県・指定都市教育委員研究協議会

10月30日、31日	管理職任用選考試験面接
11月 1日	永年勤続教職員表彰
11月 3日	教育フォーラム
11月 8日	教育功労者表彰式
11月14日	丹南地区高校教育懇談会
11月16日、17日	東海北陸ブロック教育委員全員協議会
11月20日	第1070回教育委員会
11月21日	学校視察（陽明中学校）
11月24日	第1071回教育委員会
11月27日	第72回国民体育大会入賞表彰式、第73回冬季国民体育大会開始式
11月30日	学校視察（嶺南西特別支援学校）
12月11日	第1072回教育委員会
12月20日	教育委員意見交換会
12月27日	第1073回教育委員会
平成30年	
1月16日	教育委員意見交換会
1月30日	第1074回教育委員会
2月 5日	全国都道府県教育委員会連合会第2回総会
2月 9日	第1075回教育委員会
2月19日	優秀教職員表彰式、学校保健等表彰式
2月19日	総合教育会議
2月19日	第1076回教育委員会
3月 1日	県立学校卒業式（若狭高校、金津高校、武生工業高校、羽水高校）
3月 9日	県立学校卒業式（奥越特別支援学校、盲学校）
3月12日	県立学校卒業式（嶺南東特別支援学校）
3月13日	県立学校卒業式（南越特別支援学校）
3月14日	第1077回教育委員会
3月20日	第1078回教育委員会
3月26日	授業名人任命式、漢字指導者認定書授与式
3月30日	永年勤続退職教職員辞令交付式・表彰式

※ 教育長単独での活動の記載は省略してあります。

### 3 審議会等審議状況

名 称	委員数	会議開催数	件 名	種 別	年月日
福井県心身障害児就学指導委員会	20	3	県立特別支援学校の該当児判断について	審議	29. 6. 16 29. 9. 15 29. 12. 13
福井県教科用図書選定審議会	19	3	義務教育諸学校で使用する教科用図書について	審議・答申	29. 5. 9 29. 5. 31 29. 6. 6
福井県文化財保護審議会	15	3	県指定の現地調査依頼について 指定文化財の諮問について 指定文化財の答申について	審議・諮問・協議・答申	29. 5. 22 29. 12. 26 30. 3. 15
福井県社会教育委員会議	10	1	社会教育団体の連携、協力のあり方について	審議	29. 10. 23
福井県スポーツ推進審議会	15	1	福井県スポーツ推進計画の進捗状況について	審議	30. 3. 22

### 4 教育委員会関係の許認可の状況

#### (1) 教育職員免許状の授与等（平成29年度）

区分	専修免許状	1種免許状	2種免許状	特別免許状	臨時免許状	合 計
小学校	37	111	25	0	38	211
中学校	44	106	13	1	4	168
高等学校	54	217	0	0	58	329
特別支援学校	2	27	60	0	9	98
幼稚園	3	73	148	0	2	226
養護教員	0	15	1	0	2	18
栄養教員	0	10	2	0	0	12
自立教科等	0	0	0	0	0	0
合 計	140	559	249	1	113	1062

(2) 文化財の指定状況

平成29年度においては、有形文化財（建造物・絵図等）9件、無形民俗文化財1件を新たに県文化財に指定しました。

また、2件が新たに、1件が追加で国重要文化財等に指定されました。

<指定文化財の現状>

平成30年3月31日現在

区分	国			県指定	計
	指定	選定・選択	登録		
国 宝	6				6
重要文化財	104				104
有形文化財			186	247	433
無形文化財	2			4	6
重要有形民俗文化財	1				1
有形民俗文化財			1	9	10
重要無形民俗文化財	5				5
無形民俗文化財		11		64	75
特別史跡	1				1
史 跡	24			29	53
特別名勝	1				1
名 勝	14		2	7	23
特別天然記念物	4				4
天然記念物	17		1	33	51
特別名勝天然記念物					
名勝天然記念物	1				1
計	180	11	190	393	774
重要伝統的建造物群保存地区		2			2
選定保存技術					

(3) 銃砲刀剣類の登録状況

銃砲刀剣類所持等取締法に基づき、審査会を開催し、登録証の交付等をおり行いました。

登録証交付 62 件

登録証再交付 23 件

所有者変更 218 件

(4) 教育委員会所管の公益法人

22 法人（平成30年3月31日現在）

新制度移行法人（公益財団法人11 公益社団法人1 一般財団法人8  
一般社団法人2）

5 平成30年度県立学校入学者選抜学力検査結果の状況

(1) 県立高等学校

推薦入学、連携型中高一貫教育校入学者選抜、第1次学力検査および第2次学力検査の課程別の合格者数は、表1のとおりです。また、全日制の第1次の学力検査合格者3,977（前年度4,214人）に関する教科別の平均点は、表2のとおりです。

表1 課程別の合格者数

※（ ）内は前年度実績

	全 日 制	定 時 制	合 計
推薦入学によるもの	879( 915)		879( 915)
連携型中高一貫教育校入学者選抜によるもの	90( 101)		90( 101)
1次学力検査によるもの	3,977(4,214)	159( 206)	4,136(4,420)
2次学力検査によるもの	18( 21)	28( 27)	46( 48)
計	4,964(5,251)	187( 233)	5,151(5,484)
充足率	97.5%(98.2%)	39.0%(50.7%)	92.4%(94.5%)

<参考>

募集定員	5,092(5,345)	480(460)	5,572(5,805)
------	--------------	----------	--------------

表2 教科別の平均点

	選択問題A	選択問題B
英 語	40.9( 54.3)	57.8( 54.3)
数 学	53.0( 41.7)	58.6( 41.7)
	共通	
国 語	61.9( 66.5)	
社 会	55.4( 49.5)	
理 科	47.5( 52.1)	
総 点	275.4(264.1)	

※英語および数学は大問4～6問のうち1～2問を次の2種類の選択問題として実施  
A：基礎力を問う設問の割合が多い問題（選択した合格者1,157人）  
B：記述・論述型の設問の割合が多い問題（選択した合格者2,820人）  
※英語の平均点には実用英語検定試験取得による加点は含まれていない。

(2) 県立中学校

平成27年度に開学した高志中学校の入学選抜の受験の状況は、表3のとおりです。また、適性検査等の結果は表4のとおりです。

表3 受験の状況

募集定員	出願者数	受験者数	合格者数
90	341	339	90

表4 適性検査等の結果

	配点	平均点
適性検査Ⅰ	100	35.6
適性検査Ⅱ	100	33.1
適性検査Ⅲ	100	25.9
作文	50	29.1
合計	350	123.7

## 6 平成29年度実施 平成30年度公立学校教員採用選考試験の実施状況

### 第1次選考試験

#### 試験期日および場所

期 日 等	場 所
平成29年7月15日(土) 一般教養・教職専門・教科等専門(小学校、 中学技術、高等学校各教科、養護教諭、栄 養教諭)	福井県立羽水高等学校 (福井市羽水1丁目302) 【小学校実技(水泳)・中高音楽実技】 福井市木田小学校 (福井市木田1-1360)
平成29年7月16日(日) 教科等専門(中高一括で行う教科、特別支 援学校)	

### 第2次選考試験

#### 試験期日および場所

期 日 等	場 所
平成29年8月5日(土) 適性検査、小論文 平成30年度大学院特別選考 適性検査、個人面接 スポーツ・芸術特別選考 適性検査、小論文、個人面接 教育エキスパート特別選考 小論文、個人面接	福井県立羽水高等学校 (福井市羽水1丁目302)
平成29年8月6日(日)～9日(水) (個人面接、集団討論)	

#### 《 教員採用試験の改善について 》

優秀な人材の確保、選考過程の透明性、公平性を図るため、次のような改善を行いました。

#### ○ 優秀な人材の確保

< 18年度から実施 >

- ・受験資格を60歳未満に拡大
- ・講師経験者の1次選考免除を導入

< 19年度から実施 >

- ・2次選考において、場面指導を導入
- ・国際貢献活動経験者の1次選考免除を導入

< 20年度から実施 >

- ・大学院修士課程修了時の特別選考を導入

< 21年度から実施 >

- ・面接の重視（配点割合の引き上げ）
- ・「音楽」「美術」を含む全教科での筆記試験の実施

< 23年度から実施 >

- ・スポーツ特別選考の実施

< 25年度から実施 >

- ・従来の一括募集を校種・教科別の募集に変更
- ・2つの校種・教科を併願できるように変更
- ・校種・教科の専門試験を1次選考で実施（全ての受験者が専門試験を受験）
- ・2次選考の「場面指導」を「集団討論」に変更
- ・面接の重視（配点割合の引き上げ）

< 27年度から実施 >

- ・特別選考の導入①スポーツ・芸術特別選考  
②教育エキスパート特別選考  
③グローバル教育特別選考

< 28年度から実施 >

- ・特別選考の導入①スポーツ・芸術特別選考  
②教育エキスパート特別選考  
    専門教育分野  
    英語教育分野

○ 受験者に対する情報の提供

< 20年度から実施 >

- ・2次選考の不合格者に対して、成績をA、B、Cの三段階で通知
- ・試験問題の持ち帰りと、解答例・配点の公表（自己採点可能）
- ・個人情報開示請求に基づき、以下の情報を開示  
    1次選考、2次選考における筆記試験、実技試験、面接、作文の点数
- ・筆記試験、実技試験、面接、作文の配点ならびに評価項目など選考基準をホームページで公開
- ・1次選考合格者、最終合格者について、合否結果通知の発送に併せて、ホームページでも受験番号を公表

< 21年度から実施 >

- ・判定基準をホームページで事前発表
- ・解答例、設問別配点をホームページに掲載（自己採点可能）
- ・不合格者のうち希望者に筆記試験、実技、作文、面接の各点数および合計点数を通知

< 26年度から実施 >

- ・不合格者全員に筆記試験、実技、作文、面接の各点数および合計点数を通知

○ 選考過程等の改善

< 20年度から実施 >

- ・改ざん等の不正防止のため、担当部署以外の行政職員による答案や面接時の個票と選考資料との突き合わせ点検実施
- ・民間有識者による、選考手順や選考内容の点検、抽出データによる答案等の元データと選考資料データの突合

< 21年度から実施 >

- ・実技試験において、受験番号にかわり整理番号の使用

< 24年度から実施 >

- ・電子申請による受付

< 26年度から実施 >

- ・一般教養の試験において、マークシート方式を導入

< 27年度から実施 >

- ・小学校筆記試験に外国語のリスニングテストを導入
- ・一般教養に加え、教職専門の試験において、マークシート方式を導入

## V 平成29年度の教育関係施策の取組実績

### 1 平成29年度の子な取組みについて

- ・小・中学校の優れた教材や指導法をまとめた教材・評価問題集、学校マネジメント集を新たに作成するとともに、全校の教科主任、校長を対象に研修を実施しました。また、指導主事の継続的な学校訪問も実施し、教員の指導力向上を図りました。
- ・高校生到達度確認テストについて、問題の作成・分析に参加する教員を80人から100人に増員して実施し、分析結果に基づいた苦手分野の把握による指導内容の充実を図りました。
- ・小学校の英語教科化に向けて教員が円滑に授業を行えるよう、県独自教材や指導案を作成するとともに、活用に関する研修を実施しました。また、中学・高校では、ALTを積極的に活用して話す力を含めた英語力を育成したことにより、生徒の英語力に関する国の調査において、全国トップの成績を収めました。  
(英検3級相当以上を取得した中学生 目標：50% 達成状況：62.8%)  
(英検準2級相当以上を取得した高校生 目標：50% 達成状況：52.4%)
- ・中・高校生の吹奏楽活動の充実を図るため、県外プロ指揮者等による技術指導を中学39校、高校16校で実施するとともに、大型楽器の整備等を実施しました。
- ・福井国体総合優勝に向け、「スポジョブふくい」により62人の有力選手を確保しました。また、優れた指導者の増員や県外強豪チームとの練習機会の充実により、接戦を勝ち抜く技とメンタルを強化し、愛媛国体では総合成績7位を獲得しました。  
(有力選手確保数 目標：累計220人 達成状況：累計244人)

## 2 主要施策成果報告

### (1) 主要事業の実施成果

I 元気な社会				
1 人口減少に歯止めをかける徹底戦略				
(1) 高校生企業訪問事業				高校教育課
[事業目的]	福井の職業および企業の魅力について学ぶことにより、県外大学などに進学した後、県内に戻って働く若者を増やす。			
[事業内容]	・普通科系高校の1年生を対象に、夏休みの期間を活用して企業訪問を実施			
[決算額]	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
(単位：千円)	1,558			1,558
[事業の目標および効果]	内 容	目 標	実 績	
	活動指標	参加生徒数	600人	730人
[事業評価]	ふるさと福井の職業や企業について学ぶとともに、県外の大学から福井に戻って就職した若手社員と意見交換を行うことにより、県内企業への関心を高めることができた。			

I 元気な社会				
2 福井から人材育成				
(1) 教員自主研究活動支援事業				教育政策課
[事業目的]	今後10年間で約4割の教員が退職する中、若手教員の育成を含む教員の授業力向上は急務であるため、教員の自主的な研究・研修活動を支援し、その成果を県内教員が共有することにより、指導力向上を図る。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若手教員研究グループへの支援 100件 100千円/件</li> <li>・小・中・高教研の教科部会への支援 20件 300千円/件</li> <li>・授業実践研究への支援 12件 200千円/件</li> <li>・出版活動への支援 2件 400千円/件</li> <li>・教職大学院派遣教員への支援 14件 141千円/件</li> </ul>			
[決算額]	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
(単位：千円)	18,399		18,399	
[事業の目標および効果]	内 容	目 標	実 績	
	活動指標	申請件数	149件	171件
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の作成や学習会の開催など、若手教員同士が交流しながら行った研究活動等に対し支援した。</li> <li>・教職大学院派遣については、2次募集を行ったが目標件数には至らなかった。</li> <li>・研究活動に対する補助金については、目標を上回る申請件数となった。</li> </ul>			

I 元気な社会				
2 福井から人材育成				
(2) ㊦教育総合研究所機能強化事業			教育政策課	
[事業目的]	教育研究所の移転に伴い、研究・研修機能の充実・効率化を図るとともに、福井の教育を発信する教育博物館を開館するなど、機能を強化する。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先端教育研究センターを設置し、特別研究員を2名配置</li> <li>・サイエンスラボを設置し、高度な理科実験の配信や、東京大学などの研究者による研究講座を開催</li> <li>・教育博物館を設置し、ふるさと教育に関する企画展や、福井震災についての特集展示を実施（29年4月15日開館）</li> </ul>			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	17,460			17,460
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	教育博物館 企画展等回数	3回	5回
	成果 指標	教育博物館 来館者数	5,000人	7,544人
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな教育課題に対応するため、特別研究員の配置や、高度な理科実験装置を導入し、研究・研修の充実を図った。</li> <li>・教育博物館において積極的に企画展等を開催し、来館者の増加を促した。</li> </ul>			

I 元気な社会				
2 福井から人材育成				
(3) ㊦新たな部活動指導体制推進事業			学校振興課	
[事業目的]	教員の負担軽減を図るため、外部人材を活用した部活動指導体制への支援を実施する。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員に代わって単独で部活動の指導や引率ができる部活動講師を中学校、高等学校に配置</li> <li>・部活動休養日の拡大や共同管理体制の導入を推進し、部活動指導を改善</li> </ul>			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	26,755	7,733		19,022
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	部活動講師の配置校数	29校	29校
	成果 指標	平日の休養日設定校数	101校	101校
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・退職教員等の部活動講師を中学校25校、高等学校4校に配置し、教員の負担軽減および部活動指導の改善を図ることができた。</li> <li>・今後、外部人材の増員により、部活動指導体制への支援を強化していく。</li> </ul>			

I 元気な社会				
2 福井から人材育成				
(4) 校務支援システム整備事業				学校振興課
[事業目的]	教員の校務の効率化・標準化を図ることにより、児童・生徒と向き合う時間を増やし教育の質を向上させるため、校務支援システムを整備する。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県立学校に校務支援システムを導入</li> <li>・ 小中学校に県内統一の校務支援システムが導入できる環境を構築</li> </ul>			
[決算額]	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
(単位：千円)	91,628	69,211		22,417
[事業の目標 および効果]	県立学校および小中学校において、各学校が校務支援システムを利用できる環境を整備した。			
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 29年度中に校務支援システムが利用できる環境を整備し、30年度より全県立学校および一部の小中学校で運用を開始する。</li> <li>・ 校務支援システムの運用開始により、校務の効率化・標準化を図っていく。</li> </ul>			

I 元気な社会				
2 福井から人材育成				
(5) 県立学校施設長寿命化対策事業				学校振興課
[事業目的]	老朽化した県立学校施設について、大規模改修により施設の長寿命化対策を実施し、生徒の学校生活における安全確保や環境改善を図る。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建築後 35 年以上経過した県立学校施設を対象に、外壁や内装、各種設備など施設全体の改修を実施</li> </ul>			
[決算額]	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
(単位：千円)	1,087,096	128,742	139,000	819,354
[事業の目標 および効果]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高等学校 2 棟、特別支援学校 5 棟について、大規模改修工事を実施した。</li> <li>・ 特別支援学校 3 棟の設計を実施した。</li> </ul>			
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大規模改修工事を実施し、生徒の学校生活における学習環境の改善や施設の安全確保が図られた。</li> <li>・ 30 年度以降も順次、大規模改修工事を行っていく。</li> </ul>			

I 元気な社会				
2 福井から人材育成				
(6) ふるさと教育推進事業			高校教育課	
[事業目的]	中高生に対し福井の先人の生き方等を学ぶ「ふるさと教育」を進め、県民としての誇りを持ち、本県の魅力を発信できる人材を育成する。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全中学、高校生に教材「ふるさと福井の先人 100 人」を配付し、道徳やホームルームの時間に活用</li> <li>・高校 1 年生に副教材「私のしあわせライフプラン」を配付し、家庭科授業で活用</li> </ul>			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	2,843		762	2,081
[事業の目標 および効果]		内 容	目 標	実 績
	活動 指標	教材配付数	16,000 冊	16,000 冊
[事業評価]	福井の先人について話し合いや発表を行い理解を深めることにより、本県の魅力を発信できる人材の育成が図られている。			

I 元気な社会				
2 福井から人材育成				
(7) ④高校生学力向上推進事業			高校教育課	
[事業目的]	生徒の進学希望を実現するため、教員の受験指導力や学校の進学指導体制を強化する。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校入学時に生徒・保護者向け進学説明会を開催</li> <li>・生徒の学習意欲や学習状況を把握するための調査を実施</li> <li>・入試対策セミナーの充実など大学進学希望者の学力向上を支援</li> <li>・県内既卒生対象の学習支援体制を整備</li> </ul>			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	46,836		3,956	42,880
[事業の目標 および効果]		内 容	目 標	実 績
	活動 指標	授業満足度	75%	77%
	成果 指標	難関 10 大学合格者 (県立・現役)	110 人	115 人
[事業評価]	生徒の学力向上や進路指導の充実に向けた活動により、より多くの生徒の進路志望実現が図られている。			

I 元気な社会				
2 福井から人材育成				
(8) ㊟特別支援学校就労応援事業			高校教育課	
[事業目的]	特別な支援を必要とする生徒が行う企業実習でのサポートを充実し、地元企業への就労を促進する。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ジョブコーチを配置し、生徒の企業実習の支援および求人開拓を強化</li> <li>・作業学習時の技術指導や企業実習時の受入を行う就労サポーター企業を認定</li> <li>・生徒が作業学習等で培った力を認定する「特別支援学校技能検定」を実施</li> </ul>			
[決算額]	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
(単位：千円)	11,198	3,966	1,181	6,051
[事業の目標 および効果]		内 容	目 標	実 績
	活動 指標	企業実習サポート実施 生徒数	60人	62人
	成果 指標	サポートを実施した生 徒の就職内定率	70%	75%
[事業評価]	学校ジョブコーチの配置等による就労支援の充実により、特別支援学校生徒の技能の向上や就労の促進が図られている。			

I 元気な社会				
2 福井から人材育成				
(9) 中高一貫校給食施設整備事業			高校教育課	
[事業目的]	高志中学校・高校において、地元の食材を活かした学校給食等を提供する。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・28年4月 実施設計</li> <li>・29年2月 建設工事着手</li> <li>・30年1月 給食の提供開始</li> </ul>			
[決算額]	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
(単位：千円)	386,529	28,948	279,000	78,581
[事業の目標 および効果]	施設整備が完了するとともに、30年1月から給食の提供を開始した。			
[事業評価]	地場産の食材を活用し、栄養量や食品構成に配慮した独自の献立を作成することにより、質の高い給食を提供している。			

I 元気な社会				
2 福井から人材育成				
(10) 高度な職業教育の推進事業				高校教育課
[事業目的]	地元就職する高校生が産業界で活躍するためのスキルアップを応援し、社会から求められるニーズや技術進展に対応した実践的な専門教育の充実を図る。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生が自ら地域の課題を調査し、解決策を提案、実行する地域活性化プロジェクトを実施</li> <li>・職業系高校の生徒に対し高難度有資格者による技術指導を実施</li> <li>・長期企業実習を職業系高校で実施</li> <li>・産業人材コーディネーターを配置し企業と生徒のマッチング支援等を強化</li> <li>・県内企業でのインターンシップを実施</li> </ul>			
[決算額]	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
(単位：千円)	14,240	3,253		10,987
[事業の目標 および効果]		内 容	目 標	実 績
	活動 指標	企業技術者等参画人数	75 人	83 人
	成果 指標	高難易度資格取得者数	530 人	642 人
[事業評価]	地元企業からの高難易度有資格者の招聘や生徒の短期・長期企業実習受入、技術指導などにより、生徒の学習意欲、技能の向上が図られている。			

I 元気な社会				
2 福井から人材育成				
(11) 農業経営学習施設整備事業				高校教育課
[事業目的]	次世代の高度農業人材を育成するため、農業系高校の地域性を活かした農業教育を充実する。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従来の農業高校での「栽培」の学習に加え、「加工」「流通」などの経営学習を強化するために必要な設備等を整備</li> </ul> (整備内容 28～29年度) 坂井高校 校内販売所の整備、トマト・イチゴ栽培温室の整備 福井農林高校 食品加工室等の整備、トマト栽培温室の整備			
[決算額]	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
(単位：千円)	210,024	189,000		21,024
[事業の目標 および効果]	農業の6次化に対応する人材を育成するため、坂井高校、福井農林高校において栽培温室、食品加工室、販売所等の整備を行った。			
[事業評価]	栽培温室を活用し、最新の技術を学ぶとともに、収穫した農産物に高い付加価値をつける手法を学ぶことで、加工や流通、販売に携わる農業人材の育成が図られている。			

I 元気な社会				
2 福井から人材育成				
(12) 福井フューチャーマイスター事業				高校教育課
[事業目的]	職業系高校生の資格取得等に対する意欲向上を図り、地元企業に就職して活躍するためのスキルアップを促進するため、専門資格の取得支援を行う。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の資格取得や企業実習等の実績に基づき認定を行う「福井フューチャーマイスター制度」を実施</li> <li>専門資格の取得を支援（補助率 2/3【一般資格は 1/2】）</li> </ul>			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	8,977			8,977
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	専門資格取得支援者数	1,200 人	1,919 人
	成果 指標	福井フューチャーマイ スター認定者割合	80%	85%
[事業評価]	職業系高校生に対し専門資格の取得を支援するとともに、福井フューチャーマイスターとして認定することにより、地元企業の即戦力となる人材の育成を図っていく。			

I 元気な社会				
2 福井から人材育成				
(13) 地域と進める体験推進事業				義務教育課
[事業目的]	児童・生徒が地域の人々とともに、自ら企画・提案した体験学習を実施し、ふるさと福井に誇りや愛着を持つ人材を育成する。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>全小中学校で「地域コーディネーター」を委嘱し、児童・生徒が「地域コーディネーター」や地域の人々とともに行う体験学習やボランティア活動を支援（1校 20万円を上限 県 1/2、市町 1/2）</li> </ul>			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	13,581			13,581
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	地域コーディネーターを 配置した学校数	142 校	142 校
	成果 指標	地域参画の体験活動を実 施した学校数	142 校	142 校
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中学校 142 校で「地域コーディネーター」を委嘱し、児童・生徒の体験活動の充実を図った。</li> <li>30 年度を目標に全小中学校で体験学習やボランティア活動の支援を行い、ふるさと福井に誇りや愛着を持つ人材の育成を図っていく。</li> </ul>			

I 元気な社会				
2 福井から人材育成				
(14) 古典学習支援事業			義務教育課	
[事業目的]	福井にゆかりのある百人一首などを取り入れた独自教材を作成し、小中学生が古典にふれる機会を充実する。			
[事業内容]	・百人一首や古典、ことわざ、慣用句などの作品を掲載した「古典音読・暗唱ノート」の改訂版を作成し、小中学校の国語の授業や朝の会等で活用			
[決算額]	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
(単位：千円)	1,412			1,412
[事業の目標 および効果]	内 容		目標	実績
	活動 指標	古典音読・暗唱ノート（改訂版） を配布した学校数	265 校	265 校
	成果 指標	古典音読・暗唱ノート（改訂版） を活用した学校数	265 校	265 校
[事業評価]	「古典音読・暗唱ノート」を全小中学校に配付し、授業や朝の会等で活用することにより、児童・生徒が古典にふれる機会を増やした。			

I 元気な社会				
2 福井から人材育成				
(15) 小中学校学力向上事業			義務教育課	
[事業目的]	各小中学校の優れた指導法をまとめた県独自教材を作成し、全小中学校の教員に対し研修会を行い、児童・生徒の学力向上を推進する。			
[事業内容]	・各学校が独自に作成した教材や評価問題を集約した「教材・評価問題集」や「学校マネジメント集」を作成し、校長や教員を対象とした研修会を実施 ・各学校に講師（大学教授等）を招き、指導方法・教材づくりを研究			
[決算額]	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
(単位：千円)	2,955		2,955	
[事業の目標 および効果]	内 容		目標	実績
	活動 指標	教材・評価問題集を配布した 学校数	265 校	265 校
	成果 指標	教材・評価問題集を活用した 学校数	265 校	265 校
[事業評価]	「教材・評価問題集」、「学校マネジメント集」のさらなる充実を図り、校長や担当教員の指導力向上を図っていく。			

I 元気な社会				
2 福井から人材育成				
(16) ㊦英語力向上事業			義務教育課	
[事業目的]	授業以外で英語に触れる機会を増加させるとともに海外語学研修等の実践的なプログラムにより、英語コミュニケーション能力を伸ばし、国際的に活躍する人材を育成する。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校英語教科化を踏まえた指導案や評価問題など県独自教材の作成</li> <li>・高校生を海外語学研修に派遣</li> <li>・小中学校および高等学校の教員を対象とした研修の実施</li> <li>・中高生を対象とした外部検定試験の受験補助</li> </ul>			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	99,101	4,715	20,041	74,345
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	海外語学研修に参加した生徒数	100人	98人
	成果 指標	英検3級相当以上を取得した中学生	50%	62.8%
英検準2級相当以上を取得した高校生		50%	52.4%	
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・独自の指導案・教材を作成し、研修を行うことにより、小学校教員の指導力向上を図り、児童の「話す力」の育成を目的とした授業改善を進めた。</li> <li>・授業内外でのALTの積極的な活用や海外語学研修における県独自の行程・研修プログラムにより、生徒が英語を使う機会を増やし、英語力の向上を図った。</li> </ul>			

I 元気な社会				
2 福井から人材育成				
(17) スクールカウンセラー配置事業			義務教育課	
[事業目的]	児童・生徒の心のケアを行うためのスクールカウンセラー(SC)を配置し、いじめ、不登校、暴力行為等の問題行動の未然防止や早期発見、早期解決を図る。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育総合研究所および小中学校にSC 80名を配置</li> <li>児童生徒等へのカウンセリング、教職員・保護者への助言等を実施</li> <li>事案に対する学校内連携・支援チームの構築・支援</li> </ul>			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	103,454	34,485		68,969
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	相談延べ件数	—	34,552件
[事業評価]	相談内容が複雑な案件が増加しており、今後もSCの増員や研修会を充実するなど、教育相談体制の強化を図っていく。			

I 元気な社会				
2 福井から人材育成				
(18) スクールソーシャルワーカー配置事業			義務教育課	
[事業目的]	不登校、いじめ等の問題行動、児童虐待等の課題を抱える児童生徒の修学支援、健全育成を図るため、社会福祉等の専門的な知識を持つスクールソーシャルワーカー(SSW)を配置し、関係機関と連携しながら支援を行う。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育総合研究所、嶺南教育事務所および市町に SSW 20 名を配置</li> <li>・問題を抱える児童・生徒に対する家庭訪問を行い、必要に応じて、児童相談所や警察等の関係機関と連携し、家庭環境の改善を図る。</li> </ul>			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	19,305	6,435		12,870
[事業の目標 および効果]	活動指標	内 容 支援延べ件数	目 標 —	実績 515 件
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童相談所や警察等の関係機関と連携し、児童・生徒を取り巻く環境の問題解決を図った。</li> <li>・家庭環境に問題を抱える児童・生徒が増加しており、今後も SSW の増員や資質向上研修を行うとともに、関係機関と連携し、家庭環境の改善を図っていく。</li> </ul>			

I 元気な社会				
2 福井から人材育成				
(19) ㊦「白川文字学」普及・研究促進事業			生涯学習・文化財課	
[事業目的]	故白川静博士が確立した「白川文字学」を活用した本県独自の漢字教育を研究し、学校教育等で実践するとともに、その指導方法を県内外に広げ、普及を図る。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「白川文字学」の県内外へ向けた普及活動（「第5回白川静漢字教育賞」の実施、白川文字学ゼミ公開講座や「体験！福井の漢字学習」等出前講座の開催、白川文字学ニュースの発行）</li> <li>・教員の指導力向上（「漢字指導者認定制度」の実施、白川博士の著作を読む研修会の開催等）</li> <li>・書写・書道教育の充実（書写・書道外部指導者の小・中・高校への派遣、筆使いの基本など全小中学校書写担当教員の指導力向上研修会の開催）</li> </ul>			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	9,866		100	9,766
[事業の目標 および効果]	成果指標	内 容 漢字学習講座等への参加者数	実 績 2,745 人	
	成果指標	「白川文字学の室」入室者数	15,056 人	
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「第5回白川静漢字教育賞」表彰式において優秀事例の実践発表を行うとともに、ホームページ等で県内外に発信することで、指導方法の普及が図られた。</li> <li>・書道団体と連携し、書写・書道の外部指導者を学校に派遣するとともに、教員対象の実技研修を実施することで、教員の指導力向上と児童生徒の書字能力の向上が図られた。</li> </ul>			

I 元気な社会				
3 先進的な医療と福祉、健康長寿のふるさと貢献				
(1) 子どもの目と歯の健康プロジェクト事業			スポーツ保健課	
[事業目的]	生活習慣を見直すことを通して、視力低下の進行を遅くするとともに、トレーニングによって視覚機能の改善を推進する。正しい歯みがきの仕方をつけることや乳歯のむし歯治療を通して、永久歯のむし歯予防対策を促進する。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就学前の児童や保護者、小学校 1～2 年生の児童に対し、目の健康を守る生活習慣を定着させるためのチェックカード等を配布</li> <li>・全ての小中学校の教室に、目の健康を守る 3 カ条を掲示するとともに、目を休めるリフレッシュタイムや目の周りの筋肉を鍛えるビジョントレーニングを実施</li> <li>・小中学生を対象に、歯垢染色剤やリーフレット等を活用した正しい歯みがき教室を開催</li> <li>・小学校 1、4 年生に歯科二次検診を実施（実施主体 市町 補助率 1/2）</li> </ul>			
[決算額]	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
(単位：千円)	4,507			4,507
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	歯みがき教室受講率	100%	100%
	成果 指標	むし歯のない(処置完了者含む) 小学生の割合	73.6%	72.2%
[事業評価]	全小中学校においてリフレッシュタイムとビジョントレーニングを実施するとともに、近視予防につながる生活習慣の定着を図った。小中学校で養護教諭等による歯垢染色剤を活用した歯みがき教室を行い、歯みがき習慣の定着を図るとともに、歯科二次検診を通じてむし歯治療の勧奨機会を増やし、むし歯のない小学生の割合が向上した。(28 年度 70.0%→29 年度 72.2%)			

Ⅱ 元気な産業				
7 「農」・「林」・「漁」業を意欲と誇りの総合産業へ				
(1) ふくいの和食教育推進事業			スポーツ保健課	
[事業目的]	県独自の食育教材を活用した食育の授業を行うとともに、地場産食材や伝承料理を活用した給食メニューの開発と提供を通して、和食教育を推進する。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石塚左玄の訓えを学ぶ食育教材「食育チャレンジ」を活用した食育の実施</li> <li>・栄養教諭がプロの料理人と協働で、地場産食材を活用した給食メニューを開発</li> <li>・地場産 100%和食給食を実施（6月、11月）</li> <li>・学校給食調理コンテストを開催</li> </ul>			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	1,331			1,331
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	食育授業の実施回数（年）	5回	5回
	成果 指標	給食を食べ残さない児童生徒の割合	—	86.0%
[事業評価]	栄養教諭がプロの料理人と協働で、地場産食材を活用した給食メニューを開発するとともに、石塚左玄の訓えを学ぶ食育教材を活用した食育授業の実施や学校給食調理コンテストなどを通して、和食教育の推進を図った。			

IV 元気な県政				
11 国体の成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に				
(1) 吹奏楽活動推進事業				義務教育課
[事業目的]	中・高校生の吹奏楽活動のさらなる充実を図るため、県外プロ指揮者等による技術指導や大型楽器の整備など、吹奏楽部の活動を支援する。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロオーケストラ指揮者などによる指導教員研修会を実施</li> <li>・高校生と中学生との合同練習会・演奏会を実施</li> <li>・大型楽器の購入を支援</li> </ul>			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	38,594			38,594
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	中高合同練習 開催数	4回	4回
	成果 指標	全国大会入賞 校数	2校	0校
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校（7校）・中学校（19校）を推進校に指定し、大型楽器の整備や高校生と中学生との合同練習会等を実施し、技術向上を図った。</li> <li>・推進校以外の学校においても、県内演奏家等の地域人材を派遣し、指導者や生徒の技術向上を図った。</li> </ul>			

IV 元気な県政				
11 国体の成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に				
(2) 芸術教育推進事業				義務教育課
[事業目的]	音楽や美術など芸術面における体験活動を行い、児童・生徒の感性や表現力の向上を図る。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学生および高校生の弦楽奏者の育成</li> <li>・小学校での童謡、唱歌の活用</li> <li>・日本画を活用した美術教育の推進</li> </ul>			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	14,304		1,600	12,704
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	弦楽器講師 派遣回数	468回	538回
	成果 指標	弦楽器奏者数	200名	219名
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弦楽器推進校を13校から15校に増やし、基礎的な演奏技術の習得・向上を図るとともに、校外での発表や合同演奏の機会を積極的に設けた。</li> <li>・全小中学校および高校で水墨画や日本画を描く授業を行い、児童生徒の技能と表現力の向上を図った。</li> </ul>			

IV 元気な県政				
11 国体の成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に				
(3) こども歴史文化館事業				生涯学習・文化財課
[事業目的]	福井ゆかりの人物（先人・達人）の生き方や業績等を展示や講座、出前教室等により紹介し、郷土の歴史文化の理解を深め、福井に誇りをもった子どもを育てる。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普及事業…各種イベント、出前教室等の実施</li> <li>・発掘事業（調査研究）…未開拓の人物情報の調査研究</li> <li>・資料収集事業…実物資料の収集等</li> <li>・特集事業…企画展の開催</li> </ul>			
[決算額]	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
(単位：千円)	20,901		72	20,829
[事業の目標および効果]	内 容	目 標	実 績	
	活動指標	企画展開催回数	4回	4回
	成果指標	利用者数	57,000人	57,650人
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別展示室（1階）を活用し、幕末の先人をはじめ、先人の生活や風習にスポットを当てた特別展を開催した。</li> <li>・達人のひろば（3階）を活用し、文化、産業の分野で現在活躍中の福井ゆかりの達人を紹介した。</li> <li>・特別展開催期間をはじめ、特別展関連のワークショップや体験教室を年間を通して実施し、学校などの団体利用を促進するとともに来館者の増加を図った。</li> </ul>			

IV 元気な県政				
11 国体の成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に				
(4) ふるさと文学館事業				生涯学習・文化財課
[事業目的]	ふるさと文学館において、福井ゆかりの作家や作品の魅力を伝える展示等を実施するほか、若者の創作活動を応援し、文学に親しむ機会を増やす。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展の開催</li> <li>・若い世代の創作活動を支援する文学ゼミや文学カフェ等の開催</li> </ul>			
[決算額]	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
(単位：千円)	26,499		164	26,335
[事業の目標および効果]	内 容	実 績		
	活動指標	企画展開催回数	3回	
	成果指標	入館者数	69,379人	
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内初公開となる資料の展示なども含め、本県ゆかりの作家に関する企画展や国立公文書館との初の合同企画展を開催し、来館者数が1割強増加した。</li> <li>・若い世代を対象に年間を通じて文章指導を行う「ふくい文学ゼミ」を開講し、24人が修了した（累計72人）。</li> <li>・本県出身の作家等をゲストに迎えた「文学カフェ」を7回開催し、文学ファン層の拡大を図った。</li> </ul>			

IV 元気な県政				
1 1 国体の成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に				
(5) 文化財指定促進事業			生涯学習・文化財課	
[事業目的]	県民の財産である文化財を保存し、地域づくりや観光への活用を図るため、文化財の国指定等に向けた調査を推進する。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建造物、民俗、古文書等の調査</li> <li>・名勝指定のための調査</li> </ul>			
[決算額]	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
(単位：千円)	11,931	2,790		9,141
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	現地調査件数	—	37 件
	成果 指標	文化財指定件数	12 件	13 件
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「瀧谷寺本堂等（坂井市）」、「越前鳥の子紙（越前市）」、「興道寺廃寺跡（美浜町）」の3件が国重要文化財に指定された。</li> <li>・「若狭国古城歴史資料館（美浜町）」など10件が文化財として国登録された。</li> <li>・「賀茂神社大鳥居（福井市）」や「和楽器（小浜市）」など、新たに10件を県の文化財に指定した。</li> </ul>			

IV 元気な県政				
1 1 国体の成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に				
(6) 県民スポーツ祭開催事業			スポーツ保健課	
[事業目的]	県民の誰もが気軽に参加できるスポーツ大会を開催し、競技スポーツと生涯スポーツの普及・振興を図る。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合開会式、スポーツ体験フェスタを開催（4月）</li> <li>・年間を通して「県民スポーツ祭」を開催（4月～2月）</li> </ul> 実施主体 県民スポーツ祭実行委員会 補助率 定額			
[決算額]	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
(単位：千円)	15,660			15,660
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	参加者数	—	51,111 人
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもから大人まで幅広くスポーツに親しむことができる機会の提供が図られた。</li> <li>・実施方法の工夫により、さらに県民が参加しやすいものとし、県民がスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現に寄与していく。</li> </ul>			

IV 元気な県政				
1 1 国体の成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に				
(7) 1 県民 1 スポーツ普及事業				スポーツ保健課
[事業目的]	「福井県スポーツ推進計画」に掲げる子どもの体育・スポーツ活動や、各世代の1 県民 1 スポーツの活動を推進する。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校において1 日 1 時間以上体を動かす「アクティブワン活動」や放課後スポーツ活動を実施</li> <li>・中学校において国体種目を取り入れたスポーツ体験教室を実施</li> <li>・小中学校において県内トップアスリートによる指導を実施</li> <li>・1 日 30 分以上のスポーツ実施を促すふくいスポーツチャレンジを普及啓発</li> <li>・地域のスポーツクラブ指導者を対象に指導力向上のための研修会を開催</li> </ul>			
[決算額]	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
(単位：千円)	4,324			4,324
[事業の目標および効果]		内 容	目標	実績
	活動指標	地域クラブ等指導者研修会開催	32 回	37 回
	成果指標	スポーツ実施率 (成人：週 1 回以上)	58.0%	53.1%
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校での様々なスポーツ活動により、運動が得意でない児童が積極的に体を動かすようになった。</li> <li>・地域クラブや商工会議所などで開催した研修会を受け、受講者が自分の職場で新たに講師派遣を依頼するなど、継続的なスポーツ実施への活動が促進された。</li> </ul>			

IV 元気な県政				
1 1 国体の成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に				
(8) オリンピック東京大会事前キャンプ誘致事業				スポーツ保健課
[事業目的]	オリンピック東京大会における事前キャンプの誘致活動を市町と協力して実施する。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大使館や中央競技団体等への要請活動を実施</li> <li>・県内キャンプ地の誘致PR、視察受入に要する経費を支援</li> </ul> <p>補助対象者 市町 補助率 1/2</p>			
[決算額]	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
(単位：千円)	392			392
[事業の目標および効果]		内 容	目標	実績
	成果指標	キャンプ実施覚書締結数	—	1 件
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町と共同で中央競技団体への要請活動を行うとともに、県内施設の外国語パンフレットの作成・相手国競技団体への送付や相手国駐日大使による視察受入を行うなど、各国競技団体に県内キャンプ地の情報を発信した。</li> <li>・鯖江市が中国体操協会と事前キャンプに関する覚書を締結した。</li> </ul>			

IV 元気な県政					
11 国体の成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に					
(9) ④競技力向上対策事業				競技力向上対策課	
[事業目的]	国民体育大会および各種スポーツ大会において本県選手が優秀な成績を収められるよう、計画的に競技力向上対策を実施し、競技力の向上とスポーツ振興を図る。				
[事業内容]	各競技団体における選手強化のための強化合宿等に要する経費を支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助対象者：各競技団体</li> <li>・対象経費：強化合宿等に要する経費</li> <li>・補助率：定額</li> </ul>				
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源	
	1,193,652		607,054	586,598	
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動 指標	選手確保（スポジョブふくい）	40名	62名	国体後採用含む （累計244名）
	成果 指標	国体順位	10位 以内	7位	
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本県選手が国民体育大会をはじめとする大会において優秀な成績を収めることで、県民に夢と感動を与え、スポーツの普及・振興等にも寄与している。</li> <li>・競技力向上基本計画に基づき、「福井しあわせ元気国体」での優勝、国体後の恒久的な競技スポーツ振興に努めていく。</li> </ul>				

## VI 有識者からの意見

### ○ 北陸大学 教授 藤岡 慎二

共有・共感・協働。本報告書から滲み出てくるキーワードだ。シェアリングエコノミーの台頭、資本経済から共感経済への変革、グローバル化に伴う多様な価値観を持つ人たちとの協働、そして地方創生・地域活性化の鍵となるソーシャルキャピタル。激変する世界の状況に応じて、いかなる教育を講ずるべきなのか。現代の日本における重大なテーマにおいて、先見の明を持ち、教育政策を進めている関係者の方々のご尽力に敬意を評したい。

福井県の高いレベルの教育政策は筆者が北陸地方に移り住む前から全国各地からの視察も相次ぎ、模範として有名である。その福井県の教育政策・施策に関してコメントをさせて頂くご縁を頂き、大変光栄に思っている。

平成 27 年度に策定された「福井県教育振興基本計画」は実施 4 年目に入った。本計画における 10 の基本方針に基づき、施策の方向性や内容、教育委員会や各種審議会、または現場の教員の方々の活発な活動状況が本報告書に記されている。全国や海外の状況を踏まえて、前年の課題に対してスピーディに、かつ綿密に対応策を考え施策化しており、各現場の関係者、教員の方々の弛まぬ努力が滲み出る報告書となっており、畏敬の念を抱く。

#### 共有こそ学校経営を促進するキーワード

特筆すべきは学校を超えた「共有と成長」である。特に小中学校学力向上事業における教材・評価問題集や学校マネジメント集の発行と、研修の実施に注目した。「発表名人」「ミニ先生」「3S 学習」「ときわスタイル」「NIE ノート」「ノーチャイム制」など数多くの現場の教員が活用できる施策が掲載されている。若手教員にとっては自身の教育活動において、このような事例の存在は心強い。

更に、学校長のマネジメントに向けた事例に関しても、「多忙化の解消が授業力の向上」と本質的な取り組みが載っている。学校活動全体が見直されない上で、あれもこれもと様々な学力向上施策が付加され、結果、教員への負荷が大きくなり、授業力の低下を引き起こす、本末転倒となる事態が全国で散見される。しかし、本マネジメント集では多くの学校で、業務請負における選択と集中を実現している。限られた人材で何を実現するか、そのための優先順位をどうするのか。マネジメントや選択と集中は経営学における用語だが、学校における冊子でこれほど、それらの要素が見られる事自体が驚きである。「あれもこれも」から「やるべきこととそうでないこと」へと議論を発展させ、選択と集中に基づき、先述の教育施策を実現させる学校経営のあり方は企業経営顔負けの心強い事例集だ。

学校経営を実現するために「地域ができることは地域に任せる文化」と「教員が一体となって議論する文化」「エビデンスベースト」が醸成されていることもマネジメント集から見受けられる。

「地域ができることは地域に任せる文化」こそ、学校活動における選択と集中を可能とし、地域住民に居場所と出番を作り、地域との連携活動や部活動のアウトソーシ

ングを可能とする。礎にはこれまで長年、学校と地域で構築したソーシャルキャピタル（社会関係資本）\*1 があるだろう。

また、「教員が一体となって議論する文化」により、エビデンスを基に学校現場における方向性やビジョンを明確にしたうえで、教育施策の優先順位を教員の同意のもとで実施することを可能とする。教員の当事者意識を生み、各施策に魂を吹き込み、結果的に効率的・効果的な施策実施を可能とする。

本マネジメント集はその記述のみならず、その文脈に意味がある。教員の方々が子どもの為に行う日々の活動によって生まれる数々の文化から、本質的な学校経営と教員同士の対話が生じる。効率的で効果的な教育施策を講じ、実施することが先述の多くの教育施策と結果を生む好循環を示している。現場の教員の方々の弛まぬ努力が回り回って、結果的に教員、そして子ども達への恩恵に繋がると気づかせる洗練された内容となっている。これらの事例の共有と充実した研修を基に、学力などで全国平均を下回った学校を通年でサポートする仕組みは「誰もおいていかない」という義務教育の根本の思想に基づき、結果を残している。

問題の作成・分析、教材の開発による教員の能力開発にも注目すべきだ。高校生到達度テストについては問題の作成・分析に関わる教員を増員し、分析結果に基づく苦手分野を把握し克服する指導内容の充実を図っている。テストや評価を外部業者に委託するケースが散見されるなか、県独自で問題の作成・分析にこれだけの人数を投じている施策は、福井県での教育の目的や方向性、価値観に関する議論を活発化させる側面がある。問題の作成・分析とその議論は、学力レベルの向上のみならず、効果的な OJT 型の若手教員研修となると期待できる。座学やワークショップ型の研修もさることながら、若手教員自身の仕事に当事者意識を醸成した上での OJT は、効果が高くなる。また、全国学力・学習状況調査や SASA の分析に基づいた教材作成も、エビデンスベースでの授業改善を可能とする OJT にもなるだろう。On the job training と Off the job training は、両輪であり、相乗効果を産む。本施策では OJT を通じて Off the job training の価値と効果を最大化し、教員の能力開発（Faculty Development）に大きい効果を期待できる。問題や教材の作成のみならず、今後、ベテラン教員の大量退職に備えて若手教員の能力開発にもつながる一石二鳥の施策であり、教員自主研究活動の活発化を促進している。

### グローバル化を見据えた突出した英語教育施策

平成 32 年度からの英語教科化に向けての動きも活発である。教員が円滑に授業を行えるように、県独自教材や指導案を作成し、平成 28 年度からは小学校学級担任向けに研修を実施している。この施策も先述のように教員の能力開発や教員の自主活動促進に向けた動きになると期待できる。既に中学・高校では ALT の積極活用や教員研修、高校生の海外語学研修、中高生を対象とした外部試験の受験補助による英語力向上事業により、報告書にもあるように全国トップの成績・実績を残している。この施策は今後のグローバル人材育成において、全国の模範となる要素を多く含んでいると同時に、今後の英語 4 技能化における授業・評価に対して示唆を与える可能性を持つ。

## 子ども達の感性のみならず学力にも影響する音楽・美術芸術教育施策

中・高校生の吹奏楽部活動の充実による、県外プロ指導者による技術指導や大型楽器の購入などの環境整備充実も重要である。音楽は一見、学力に直接関係が薄いように見受けられるが、IQ を高くするという研究がある。ジョアン・リップマン氏は元ウォール・ストリート・ジャーナルの副編集長で「Strings Attached: One Tough Teacher and the Gift of Great Expectations (条件付き：ある厳しい教師と大いなる期待の贈り物)」の著者でもある。氏は“多くの著名な成功者が、成功の少なくとも一因として音楽教育を挙げる。昨年ノーベル医学賞を受賞したスタンフォード大学のトーマス・スドフ教授は、ノーベル賞を受賞できたのは木管楽器バスーンの先生のおかげだと述べた。6歳でバイオリンを習い始めたアルバート・アインシュタインは、相対性理論を発見したのは「音楽的な知見があったからだ」と語っている。”と記している。トロント大学のE・グレン・シュレンバーグ教授が2004年に行った、音楽がIQに与える影響を評価する研究では、音楽を習ったグループが他のグループよりIQが上昇した。音楽の訓練は、子供の実行機能、すなわち計画を立て、体系化し、戦略を練り、問題を解決する能力を向上させることが分かった。

学習能力に影響するのは音楽だけではなく、美術・芸術も効果があると言われている。内田洋行教育総合研究所の平野智紀主任研究員によれば、美術・芸術活動における「みる・考える・話す・聴く」という4つの活動は、答えが一つに定まらない問いについて必要な活動であると主張する。考える・議論するツールとしての「作品」と「言葉」を使わせる美術・芸術は学力の基礎だと氏は言う。実際に美術・芸術作品を鑑賞した上で自身の意見を考えて表現する問題は平成26年度全国学力・学習状況調査を始め、東京大学などでの入試問題でも出題されている。ミネソタ州バイロンでの実証実験では州の標準テストの成績が美術鑑賞を始めてから上昇した。

音楽も含めた美術・芸術活動への支援は吹奏楽活動推進事業のみならず、芸術教育推進事業などの事業で実現化されており、これからの答えが一つに定まらない時代を生き抜く力の礎を育むと言える。

## 現状認識が自立的な成長能力を生む

「スポジョブふくい」による有力選手の確保や優れた指導者の増員、県外強豪チームとの練習機会の増大は、挑戦を勝ち抜く技とメンタルを強化するだけではなく、競技における自身のレベルの現在位置を実感させる。目標を定めることで自立的に達成すべき課題を明確にし、選手たちの自己研鑽能力を高めて行く。その結果が愛媛国体における総合成績7位獲得につながったと考えられる。

以上、平成29年度における主な取り組みについて、その効果と意義について述べさせて頂いた。この他にも多くの有意義な施策や事業があり、是非、全ての施策や事業にコメントをさせて欲しいところだが、いくつか絞ってコメントをさせて頂くことにする。

## これからの日本と世界に必要な教育政策・施策について

今後の日本の状況を鑑みた時、地域活性化、グローバル化、高大接続改革、そして働き方改革に対応する施策も教育側から求められる事になるだろう。

### 人口減少時代における地域に還るブーメラン人材と地域の担い手を育む

地域活性化においては県内からの人口流出が課題となっている。全国的に18歳時の高校卒業時に就職や進学を機に県外に出る場合が多い。大学進学を機に他県に流出し、かつその後も戻らない場合がある。原因として、高校生時に将来県内で働く、もしくはキャリアを積むイメージを持ってない現状が挙げられるだろう。県内で働く魅力や、自身のキャリアプランを考える機会を与える施策が必要だ。目標参加数を上回る高校生が参加した高校生企業訪問事業にその効果を期待したい。また大学進学以外にも県内で働く魅力とキャリアイメージを持たせる必要性がある。ふるさと教育推進事業にて高校生自身のキャリアにおける内発的動機を考えるきっかけを与える。県内産業界からの人材に関する要望に応えるべく、高度な職業教育の推進事業、福井フューチャーマイスター事業により一層の教育界と産業界とのマッチングが図られるべきである。

今後の産業における成長産業の分野に農業・林業・漁業などの第一次産業がある。第一次産業従事者の高齢化や減少が進む中、日本ブランドの確立や地域商社の設立などによる一次産業における海外への進出、スマートアグリや自動走行などのICT技術の進出や6次産業化による生産性向上など、イノベーションが進んでいる萌芽が県内外でも散見される。既成概念に囚われ、第一次産業を斜陽産業とみなすのは無知ゆえである。農業経営学習施設設備事業によりハードを充実化させ、第一次産業への興味関心を持たせる為に、ふくいのに食教育推進事業はその第一歩となるだろう。

分野に限らず、故郷である地元、そして福井県における地域活性化のアイデアを練る、地域と進める体験推進事業は包括的な地域活性化策を考える絶好の機会となる。地域活性化は稼ぐ“攻めの戦略”のみならず、県民の生活を守る“守りの戦略”も必要だ。全国的に地域コミュニティが薄くなっている昨今、福井県は全国的に見れば強い地域コミュニティを維持していると考えられる。しかし、子供たちや保護者を取り巻く状況は複雑化・高度化している。学校内のみならず、学校と家庭の間、家庭内での課題を早期に発見し、関係各所と連携し解決する必要性が生じる。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置は、学校と家庭・地域を連携させ、家庭を孤立化させない上で、重要である。

### グローバル人材からグローバル人材へ

グローバル化に際し、グローバル人材は当然ながら、より一層の英語力のみならず、タフな学力と幅広い教養、そして故郷と祖国における誇りが必須である。特に今後は、自身の故郷（ローカル）と世界（グローバル）をつなぎ、自身の足元を盛り上げられる言わばグローバル人材が求められるだろう。福井県が強みとする全国トップレベルの学力を高校生学力向上推進事業において維持しつつ、より一層の弾みをつける。ふるさと教育により自身の故郷と祖国について知り、異文化を理解し、英語で発信・受信できる人材を英語向上事業にて育む。以上がグローバル人材を育む鍵となる。

## 2020年からの教育改革に待った無し

2020年から始まる高大接続改革と大学入試改革に対応する施策も今後重要性を増す。教育総合研究所機能強化事業において、改革の分析や具体的な解決策などの研究は、先端教育センターでの研究知見が今後の新しい学力レベル向上の鍵となる。今後、理系教育においてはサイエンスラボの設置がより重要性を増す。更には、ベテラン教員からの若手教員への知見の伝達のみならず、若手教員による高大接続改革・大学入試改革への対応策の現場における教育自主研究、その研究成果の共有はボトムアップによる全県教員に向けた解決策になると期待する。教員の働き方改革による時間の余裕は、これらの現場での研究活動を可能とする。既に教員の多忙化が問題となっている現在、教員の働き方改革と高大接続改革・大学入試改革に向けた教員の研究は両輪である。校務支援システム整備事業や新たな部活動指導体制推進事業、小中学校学力向上事業における学校マネジメント集や教材・評価問題集などは教員の働き改革を実現する施策であり、継続的な取り組みが求められる。

## 三方よしの教育改革を福井県から日本に、世界に発信する

我が国と地方は人類有史以来の未曾有の人口減少に直面している。他方、グローバル化で世界中にアクセスしやすくなり、ヒト・モノ・カネ・チエ・コミュニティが複雑に絡み合っていく。地方は東京や大阪などの大都市圏を介さず、インターネットやSNSを通じて、直接海外とコミュニケーションを取れる時代である。AIやIoTの台頭、国内の就業人口の急激な減少による外国人労働者の受け入れ、国民生活を支えてきた様々な制度の疲労など、変化が予測できず、かつ変化の激しい時代になっている。

福井県がいかなる未来を描くか。今後の教育政策・施策を講ずる上で、自分（のキャリア）よし・他人（家族や地域の人たち）よし・周囲（故郷と福井県）よしの三方よしを如何に実現するかが鍵となる。

課題先進国日本における課題先進地域での教育の取り組みは、やがて日本のみならず世界に発信できると期待している。今後、教育関係者や県内外大学等関係諸機関、そして地域が連携し、日本のトップレベルでの教育施策の維持とますますの発展を期待する。

唱歌ふるさとの「志を果たして、いつの日か帰らん」が「志を果たしに、いつの日か帰らん」と歌える日まで。

- \*1 ソーシャルキャピタル（社会関係資本）：人々の協調行動が活発化することにより社会の効率性を高めることができるという考え方のもとで、社会の信頼関係、規範、ネットワークといった社会組織の重要性を説く概念

## ○ 福井県高等学校PTA連合会 会長 宮谷 正志

平成 27 年 12 月に策定された「福井県教育振興基本計画」も実施 4 年目に入り、教育委員会や各種審議会等の組織運営が確立され、活発に意見交換されていることがこの報告書から伺える。関係者の方々のご尽力に改めて敬意を表したい。

さて、10 項目における教育方針を推進され、年々充実した諸会議等がなされているが、私たち保護者の幅広い意見が反映され、子どもたちの姿や地域の実情等を踏まえた運営になることを今一度お願いしたい。また、この素晴らしい活動内容を私たち P T A に発信していただき、福井県の子どもたちの人間形成・人材育成に少しでも役に立てるよう、私たち大人が力を合わせて指導、応援していけることを期待する。

昨年も意見を申したが、教育方針を推進するために教育委員の方々の負担が大きくなることを危惧する。P T A の方々が諸会議等に参画し、少しでも教育委員の方々の負担軽減の活動になるよう、再度対応の方をお願いしたい。

各課の事業報告書を拝見すると、毎年事業を見直し、改善されていることが伺える。また限られた予算の中で、上手く実績を挙げている。この報告書の内容を踏まえ、個別に思うことは下記の通りである。

- 1 福井県の学力は、平成 29 年度も全国トップクラスの実力がある。このような中、やはり気になるのは子どもたちの学力格差が広がり、人間関係にひずみが生じるのではないかということである。平成 29 年度はそのところも視野に入れていると思うが、次年度以降も習熟度別学習の拡充に取り組んでいただきたい。
- 2 英語力向上に向けた A L T 講師の派遣については、これからも進めていただきたい。特にグローバル社会に対応できる子どもたちのコミュニケーション力を高めていくことが大事だと考える。海外への研修や夏休みに実施しやすい短期留学など、実社会で求められる語学力を身につけるような環境を整備していただきたい。
- 3 スクールカウンセラーの派遣により、子どもたち同士のいじめや精神的な問題は少なくなってきたと思うが、パソコンやスマートフォンの普及により、SNS 間での「見えないいじめ」対策が急務だと考える。保護者や教職員との間で情報を共有し、それぞれの問題対策に努めていただきたい。
- 4 教職員の部活動による負担軽減に向けた外部講師については、事業内容として評価できるが、それぞれの学校や教職員の実情に合わせた取り組みを取るべきではないか。顧問である恩師に対する子どもたちの思いを十分理解したうえで、外部講師を派遣するべきだと考える。
- 5 キャリア教育に対する「福井フューチャーマイスター制度」や、大学進学に向けた「進路説明会」等、保護者や企業を交えた情報共有の場、そして子どもたちと共に考える場をこれまで以上に設けていただきたい。

以上、いくつかの点について私見を述べたが、この教育振興基本計画に挙げられた施策は、教育委員の方々の尽力なしでは推進できないものである。福井県の子どもたちがふるさと福井に誇りを持ち、夢や希望を実現できるよう、教育委員の方々による教育行政が適切に行われることを期待する。